

## 第2回キャリア教育研究部研修会 報告書

### 1 実践発表

(1) キャリア教育実践～「学ぶことの楽しさや意義」を感じられる授業を目指して～

佐藤小 鈴木 知里 教諭

- ・校内で誰でもキャリアオリエンテーションができる教師用の説明書やプレゼンを共有した。
- ・キャリアパスポートを通して、保護者、地域と連携した。
- ・授業実践を通しての「未来へつなぐ一言」の事例集の紹介。

(2) ふるさとキャリア教育の実践～創立150周年行事を通して～

二俣小 古木 ちひろ 教諭

- ・ふるさとキャリア教育では、自分や仲間、ふるさとの今と未来について深く考えることで、ふるさとの今と未来をつなぐ子を育てようとしている。
- ・150周年行事とキャリア教育を結びつけた実践。
- ・家庭科、総合的な学習での実践。



【佐藤小 鈴木知里 教諭】



【二俣小 古木ちひろ 教諭】

### 2 指導案説明(第3回研修会授業研究)

(1) 中学3年社会科「地方自治と私たち」

東部中 根木 智浩 教諭

- ・キャリア教育アンケートの結果をもとに、否定的な回答の割合を減らそうと授業を組み立てた。
- ・地方自治体の課題を調べ、解決のために自分たちにできることを考察、構想し、表現すること、そして、地方自治を意欲的に学び、主体的に地域社会に関わることを目標としている。
- ・本時は、プレゼン発表をして、浜松をよりよくするために、将来の自分にできることを伝え合う活動を予定している。

## (2)小学4年生国語科「調べて話そう、生活調査隊」

中瀬小 栗田 香 教諭

・キャリア教育の重点目標で、生活や学習上の課題を見だし、自分なりの目標を立てて取り組むことが出来ることを目指しているため、本単元では、調査したことを工夫してまとめ、相手に伝わりやすい話し方を意識して伝えることに重点を置いている。  
・児童が必要感をもって調査に取り組めるようにしたい。また、グループ活動の中で、自分の考えを根拠をもって伝えられるようにしたり、友達の考えと比較して自分の考えとつなげていけるようにしたりしていきたい。

### 3 講義・演習

演題「各校の特色を生かしたキャリア教育を推進していくために」

筑波大学教授 藤田 晃之 氏

○各学校が「うちの子たちに身につけさせたい力」を設定することが重要である。これらの力は、「身についたかどうか」の検証をすることを前提に設定する。そのために、PDCAサイクルの確立、カリキュラムマネジメントが必要になる。

○全国学調の生徒質問紙の調査項目から、各校の傾向を知ることが有効。「身につけさせたい力」が具体的になっていれば、それを“疑問形”に変換してアンケート調査項目が作れる。小中高のバトンの受け渡しもできる。

○各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にすることが必要になる。誰から見てもゴールが分かるように、目標を設定することが大切である。(明るく、朗らかに、楽しく・・・等曖昧な言葉は分かりにくい)また、ダブル・バーレル質問(一つの質問文で二つもしくはそれ以上のことを同時に聞いている質問)にならないように気を付ける。

○「社会に開かれた教育課程」にしていくことが必要。生きて働く「学校・地域連携カリキュラム」にしてほしい。今、目の前の子どもたちに、この単元を通してどのような力をつけさせたいのかを考えてほしい。



【藤田 晃之 教授】



【交流をする参加者の様子】